

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイセンターこすもす		
○保護者評価実施期間	2026年1月5日		2026年1月23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 5名
○従業者評価実施期間	2026年1月5日		2026年1月23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数) 2名
○訪問先施設評価実施期間	2026年1月5日		2026年1月23日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	契約児童一人ひとりの特性や発達段階に合わせた支援を行っている。休憩時間など契約児童とのコミュニケーションを大切に信頼関係の構築を図っている。法人の理念である「自他相愛」を大切に児童に寄り添った支援の実施をしている。	児童の興味関心や好きな言葉・安心できる声掛けを模索しながら、安心して授業に参加できる関わりを意識している。また、これまでの支援経験や専門的知識を踏まえながら支援方法を検討し、児童の特性に応じた関わり方を意識している。	児童の反応や成功体験を記録し支援方法の共有と質の向上を図る。職員の経験や専門的視点を活かしながら、より効果的な支援方法を継続していく。
2	訪問先(小学校)との連携を大切にし、児童の生活環境を踏まえた支援を行っている。職員はこれまでの支援経験や専門的知識を基に児童の行動の背景を多面的に捉え、訪問先の職員と情報共有を行いながら児童にとってより良い支援環境の構築を目指している。	訪問先の職員と情報共有を行い児童の特性に合わせた支援方法を共通理解できるよう努めている。これまでの支援経験や専門的な視点を活かし、訪問先でも実践しやすい具体的な支援方法の提案を行うよう努めている。	支援方法や声掛けの工夫を訪問先と継続的に共有しながら、児童にとって一貫した支援が行えるよう連携体制の充実を図っていく。
3	児童が安心して過ごせる環境づくりを大切にし、児童の様子を丁寧に観察した上で支援を行っている。職員は児童表情や行動の変化を注意深く捉え、これまでの経験や専門的知識を活かしながら児童の気持ちや背景を理解するよう努めている。	児童の好きな言葉や関心のある話題を取り入れたコミュニケーションを行い、信頼関係の構築を図っている。また児童の反応や行動の変化を踏まえながら関わり方を柔軟に対応している。	職員間で関わり方を共有しより効果的な支援方法上の検討を行うことで支援の質の向上につなげていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問先との支援方法や関わり方等の情報共有が十分に確保できない場合がある。	個々の支援内容や気づきが職員間で整理・共有される機会が十分に確保できていないことがあるため。また、意見交換や振り返りの時間が限られてしまうことがあるため。	支援記録の共有やミーティングを定期的に行い、職員それぞれの経験や専門的視点を活かしながら支援方法の統一や質の向上を図る。 記録や簡易報告を活用し情報共有の機会を増やすとともに、支援内容の理解や連携の強化につなげていく。
2	児童の好きな言葉や効果的な声掛けの整理がまだ不十分な所がある。	時間の関係で、児童とのコミュニケーションの振り返りや支援方法の整理を行う時間が限られている場合がある。	成功した支援事例や効果的だった関わり方を記録として整理し、職員間で共有することで支援の質の向上につなげていく。
3			